

ユニバーサルデザインに関わる一連の研究

建築学科 後藤義明

Keywords : 使いやすさ、人間工学、高齢者、実験、住宅

1. 開発目的（または研究目的）

ユニバーサルデザイン（以下 UD）とは、可能な限り多くの、理想的には全ての人々に利用可能なように製品や環境をデザインすることであり、長寿高齢社会を迎えた我が国の製品開発において必須とも言える考え方である。UDはアメリカを中心に広まった。他に Inclusive Design という表現もあり、ヨーロッパでは Design For All とも言われる。我が国でも 2002 年横浜で開催された国際 UD 会議を契機に多くの企業や自治体はその普及に関心を持って活動している。住宅は、家族の多様さや使用年月の長さから見てももともと UD が反映されるべき製品である。そこで、使い勝手に関して、製品設計の際に有効なデータの収集を目的として実験研究を行った。

2. 本研究の概要

様々な人が快適に住み続けられる住宅は、誰にとっても安全で、使いやすいことが重要であり、歩行手段の変化に対応することと家族の暮らしの変化に応じる柔軟性を備えていなければならない。本研究は特に高齢期に見られる日常動作能力の衰えにより生じる生活の支障に対応する性能要件を探るために行った高齢被験者による実験研究であり、主に動作解析と官能評価に基づいて分析された。実験の様子とこれらの研究成果を反映させた製品の一例を紹介する。

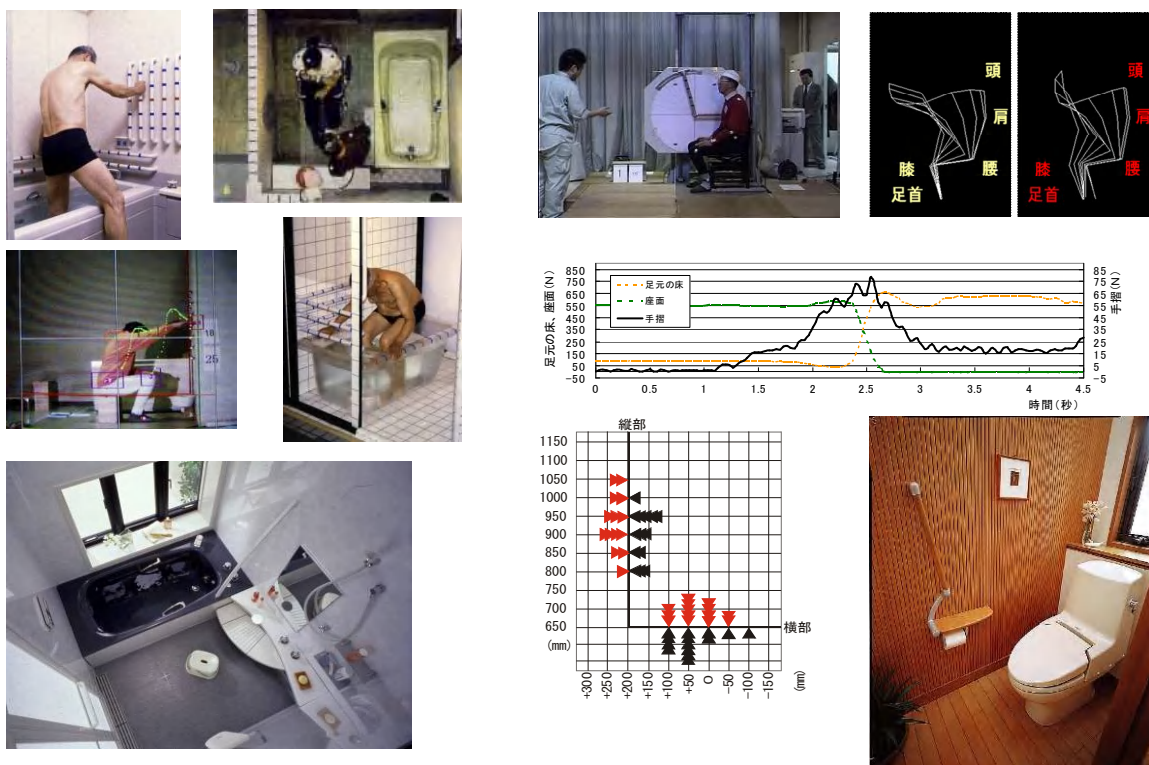


図-1 入浴に関わる実験と製品例

図-2 手すりに関わる実験と製品例